

TRICOLOR

大会・公式戦結果

Top

【神奈川県社会人サッカーリーグ 1部(KSL-1)】

▼第1節

vs ブレッサ相模原 2-10

Youth

【日本 CY(U-18)関東 1次予選】

vs Y.S.C.C. 0-1●

vs ヴェルディ相模原 0-1●

vs リオ FC 1-1△

vs ザスパ草津 0-4●

Junior Youth

【日本 CY(U-15)県大会】

▼1回戦

vs KAZU.S.C. 2-10

▼2回戦

vs FC 厚木 MELLIZO 0-3●

小6

【横浜市春季サッカー大会】

vs 大崎 SC 1-2●

vs 西谷 FC 0-1●

vs FC サンダース 3-10

vs 山田若竹 SC 0-1●

vs FC みたけ 0-1●

※6チーム中第5位

小4

【横浜市春季サッカー大会】

vs 横浜すみれ SC-C 2-00

vs SCH.FC 0-7●

vs 横浜川和 FC 1-1△

vs 嶮山キッカーズ 3-00

vs もえぎ野 FC 0-5●

※6チーム中第3位

Papas

☆マスターズリーグ

【県マスターズリーグ】

vs 藤沢 0-6●

vs ヨコハマ 0-2●

☆Rec

【県シニアリーグ四十雀4部】

vs 座間 0-0△

vs ウィット 2-10

☆Comp

【県シニアリーグ四十雀3部】

vs 湘南ベガサス 0-2●

vs Tsujiko 5-20

☆0-40

【市シニア交歓試合】

vs 横浜 OB 1-2●

今、グラウンドでは・・・

Top

【県リーグ開幕！】

今年も神奈川県社会人リーグが開幕しました。

Topチームは4月19日(日)にブレッサ相模原との開幕戦を行い、みごと2-1で勝利しました。

今年のTopチームは3月に田村新監督を迎え、チーム作りを行ってきましたが、まだ田村イズムを全選手に浸透させ思いうような試合展開にするためには時間が足りず、多少不安を残したままの開幕戦となりました。

案の定、試合はブレッサ相模原に先取点を奪われて、苦しい試合展開でしたが、かながわクラブの1点目は中盤でボールを奪って、そのまま早い攻撃につなげるという形でした。

2点目はDFからの早い展開からサイドをえぐるの得点、どちらの得点も昨年までのかながわクラブにはなかった形での得点でした。

逆転勝ちをし、何とか最後まで持ちこたえられたのは、新監督就任の効果があつたのかもしれない。

今後は中盤で人数をかけてボールを奪う、スペースを有効に使ってのボール回し、相手陣内での分厚い攻撃、などなどチームとしての課題は山ほどあります。

また、この後も強豪チームとの対戦が続きます。さらに練習を重ね、今後のリーグ戦に臨みたいと思います。



リーグ戦の予定は下記のとおりです。皆さんの応援をお待ちしております。

(中本 洋一)

第2節	
期日	5月10日(日)
会場	谷本公園 G(横浜市青葉区)
Kickoff	19:05
対戦相手	六浦 FC
第3節	
期日	5月24日(日)
会場	海の公園なぎさ広場
Kickoff	19:05
対戦相手	横浜 GSFC コブラ

【選手紹介⑩】

Top チーム選手紹介も、今回で10回目、今回ご紹介する選手は、Top チームの秘密兵器、かながわクラブユース出身の6堀内選手です。

昨シーズン途中から Top チームに加入し、いきなり県リーグでゴールをあげて鮮烈なデビューを果たしました。

6堀内選手の持ち味はなんと言っても、相手をかかわせるスピードとドリブルです。

先日のプレッサ相模原戦でも、ゴールラインぎりぎりのボールをスピードを生かし追いつき、角度のないところからそのまま強烈なシュートを放ち得点に絡みました。

ゴール前では相手 DF をかわし得点を奪える貴重な得点源です。特に左45度からのミドルシュートは6堀内選手の最大の武器です。切れのある動きはユース年代の選手のお手本にもなると思います。

今後の6堀内選手の左45度にご注目ください。(中本 洋一)

☆堀内選手からのコメント



今年も一生懸命がんばりますのでよろしくお願ひします。ミニストップ日吉本町店でバイトしています、3万円以上お買い上げの方に1割引きいたします。

Youth

まさに公式戦真っ只中です。この原稿を書いているのは5/3(日)ですので、明日はザスパ草津との試合のために群馬県の伊勢崎市まで出かけて行きます。

ユースの全国大会は「adidas CUP 2009 日本クラブユースサッカー選手権(U-18)大会」が高校のインターハイと同時期にJヴィレッジを中心に行なわれます。その予選は関東レベルで行なわれますので、今回のように遠路はるばる出かけることもあるわけです。

というのも、神奈川県内では14のクラブチームがありますが、県によっては1ないし2チームしかないところもあり、関東から全国に出場できるチーム数や都県のバランスを考えた場合、不平等とならないようにしているからです。

さて、その予選も、ここまではなかなか思うように試合を進められずにドタバタしていますが、チームコンセプトをもう一度確認し、「やらせてもいいこと」「絶対に譲れないこと」「一番に狙うべきこと」が整理できてくると楽しみです。

新しい仲間も増えてきています。お互いを認めつつも、サッカーでの厳しい要求は必要です。楽しい中にも「やる時はやる」といった、一本筋の通った雰囲気が出てきつつあるのもたのしいことです。

あとは選手たちに自信がついてくることを待つのみです。(内田 佳彦)

Junior Youth

「日本クラブジュニアユース(U-15)選手権県大会」は2回戦敗退で終了となりました。

結果は残念ではあるのですが、選手たちはチームとして目標にしてきたこの大会をどれだけ本気モードで戦えたでしょうか?

「勝ちたい」と思ったり言ったりするのは誰もができる簡単なことです。大事なはその気持ちがどれだけのもので、それをどれだけ行動に移せたかということだと思ひます。

ジュニアユース年代では結果よりも内容の方が重要ではあります。しかし、選手にとって負けてOKという試合はありません。

常に勝負にこだわる姿勢をもてなければ選手と言えません。

特に、リーグ戦と違ってノックアウト方式のトーナメントではなおさらです。負けたら次のステージに進めないわけです。これは、選手が成長して行くために必要な公式戦の場が、やりたくても与えられないということを意味します。上のステージに行くためには自分たちの力で掴み取るしかないのです。

それだけに、「チームの目標を1人1人が真剣に捉え、本気で取り組めたかどうか」ということをもう1度振り返って、しっかり検証することで次につなげていって欲しいと思います。

今後の成長は、取り組む姿勢次第で大きく変わってくるはずですよ。

5月～ジュニアユースでは「県 U-15 リーグ」が始まります。(二木 昭)

小 6

春季リーグ戦は1勝4敗で、6チーム中5位の成績で終了しました。

「相手からボールを奪う」、「ゴールを奪う」際の「強引さ」や、「この試合に勝たなければ」といったときに「力を発揮できない」など、「技術的」なことではなく「メンタル的」な部分での弱さが、敗因ではないかと思ひます。

引き続き「相手ゴール前」でのトレーニングはもちろんながら、「メンタル改善」も行っていくつもりです。

3週にわたり応援、審判のお手伝いをしてくださったご父母の皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。

(高田 成典)

小 5

【遊びのすすめ】

2/28の夜、港北小学校の地域ふれあいの部屋をお借りし、懇親会を兼ねてみんなでDVDの鑑賞会を行ないました。そこで流した映像は「ファンタジスタ(ロベルト・バジジョ)」です。98年生まれの子供たちに、「バジジョって知ってる?」と聞いてみたものの、予想どおりやはり誰一人として

バッジョのことを知っている子はいませんでした。セリエ A で通算 215 ゴールをあげ、イタリア代表でも大活躍(主にアメリカ大会でしたが...)したこの偉大な選手のボールタッチを観て、何かを感じてもらえればとの思いから、敢えてこのような時間を設けたのでした。映像を流すまで、お父さんたちは子供たちが長時間じっとしているとは思えないとおっしゃっていましたが、その華麗なプレーが画面に映し出されると、全員の視線はテレビに釘付けに。そして約 1 時間の映像が終わると、子供たちの間から自然と拍手が沸き起りました。皆口々に「すごすぎる!」「メッシなんかよりずっとすごい!」「今まで見た選手の中で一番上手い!」と興奮気味に話していました。以下は、映像の中でバッジョ本人が自分の少年時代について語っていたシーンから抜粋したものです。

『私とボールとの間には絆があり、それは時間とともに形成されたのです。子供のときにさまざまなプレーを身につけました。すべての時間がサッカーをするためにあったのです。重要なことはこの時期に覚えたと思います。あの時期に私はボールを扱うことを覚えしました。ボールをトラップすることを覚え、ボールを愛することを学んだのです。サッカーは大きな喜びと幸せを与えてくれるものでした。夏はテニスシューズをすり減らして、サッカーをしていました。シューズはわずか 15 日間しかもちませんでしたよ。でも、どんな靴でも良かったのです。大事なものはプレーをし続けることでした。』

以前、益子コーチからも同じような話を聞いたことがあります。小学生時代をかながわクラブで過ごした益子さんは、もちろん当時の担当コーチからも多くのことを学んだそうですが、プレーヤーとしての原点は公園で遊びとしてボールを蹴っていた時間だったと言っています。後にプロ選手となった同じくかながわクラブ出身の菊原さんとは、いつも一緒にサッカーをしていたそうです。菊原さんは当時から天才的なボールタッチとテクニックを身につけており、その技を盗むべく抜かれても抜かれても何度も挑戦していったそうです。そして一つ二つと少しずつ今までできなかったプレーができるようになっていったとのこと

でした。

うまくなる秘訣は、やはりたくさん遊ぶこととボールに触ることのようです。ここまで読んできた君は、きっとボールに触りたくなってきたことでしょう。さあ、トリコロールをしまい、ボールを持って遊びに行きましょう!

＜バッジョを評する言葉

～ウィキペディアより～

- ◆「94 年米国 W 杯で僕らを決勝まで連れて行ってくれたのはロビーだった。彼はフットボールそのものさ」 アレックスandro・コスタクルタ
- ◆「彼はコンコルドみたいなものさ。ただ自由に飛ばせてあげればいいんだ」 ロナウド
- ◆「彼は生まれながらの優雅さを持っている」 パベル・ネドベド
- ◆「偉大なフットボーラーのリストにバッジョを加えるつもりはないよ、何故なら彼は別の惑星からやって来た宇宙人だから」 エンリコ・キエーザ
- ◆「テル・ピエロがピントリッキオイルネサンズ期の画家、ラファエロの兄弟子)ならバッジョはラファエロだ」 ジャンニ・アニェッリ
- ◆「10 番というより、9.5 番」 ミシェル・プラティニ
- ◆「今まで一緒にプレーした選手の中で最高のプレーヤー」 ジョゼップ・グアルディオラ
- ◆「グアルディオラはバッジョを慕ってイタリアのクラブに移籍した経歴をもつ。」
- ◆「彼のようなフットボーラーと出会うには、少なくともあと 20 年はかかる」 ガブリエル・パティストウタ
- ◆「それでも貴方は偉大だ」 クラウディオ・タファレル
- ◆「94 年アメリカ W 杯の決勝の PK 戦で PK を外したバッジョに対してかけた言葉。」
- ◆「世界でイタリアだけが唯一、彼を No.1 だと認めなかった」 ジネディーヌ・ジダン
- ◆「彼はフィールドの中で出来ない事など何もない」 シーコ
- ◆「私が現役のとき、悪夢のような選手が 3 人いた。マラドーナ、ファン・バステン、そしてバッジョ」 ジュゼッペ・ベルゴミ
- ◆「私はロベルトをピッチに送り出すとき一つだけ指示をする。『90 分間で一度だけでもいいから君らしいプレイをしてくれ』

とね。それが我々に歓喜をもたらすことを私は知っているから」 カルロ・マッツォーネ

◆「僕がイタリアに来てから、いつもバッジョとサッカーをすることを夢見ていた」 イバン・サモラーノ

◆「将来引退したら、皆に自慢するのさ。僕はバッジョとプレーしてた、とね」 スティーヴン・アッピアー

◆「確かに、私の元には沢山のクラブからオファーが届いた、ビッククラブからも多く。けれども、このオファーより望むものはなかった。バッジョとプレーできる、それだけでどのクラブでプレーするよりも意義のあることだと私は思う」 ジョゼップ・グアルディオラ

◆「生まれながらのファンタジスタにして最後の本物のファンタジスタよ、あなたは永遠に私達の中で輝き続けるであろう」 バッジョの引退試合でファンが掲げたフラッグ。(鈴木 章弘)

小 4

【春季大会開幕】

4 月 29 日(水/祝)から横浜市春季サッカー大会が始まりました。

各ブロック 2 位以内までが決勝トーナメントに進出できます。まずは、決勝トーナメント進出を目標にがんばっていききたいと思います。そのためには、1 人 1 人が「戦う気持ち」を持ってプレーすること「事前にコンディションを整えること」などが必要となります。

1 人 1 人が力を発揮できれば必ず決勝トーナメントに上がれます!! みんなで力を合わせて頑張りましょう。

【お風呂上りにストレッチ】

みなさんは、お風呂上りにストレッチをしているでしょうか??

私も現役時代は、身体が柔らかくなる様に毎日お風呂上りにストレッチをしていました。(今はすごく硬いですが……。)

ストレッチは、怪我の予防の他に、身体が柔らかくなりプレーの質が上がります。さらに、サッカーが上手になりたいと思った選手はこの日からストレッチを始めてみましょう。

【お願い】

春季大会等で外に試合に出る機会が多くなります。今一度、自分の持ち物にチーム名・自分の名前が書いてあるかを確認してください。(丸山 祐人)

小 3

【お兄さん・お姉さんになった!?!】

4月から平日の活動も始まりサッカーに対する意識が高まってきているのを感じます。プレー一つ一つを見ても、今まで出来なかったことに新たにチャレンジしようとしている姿が見られます。また、以前よりも(多少)話を聞いてくれるようになりました(笑)。特に最近では体験スクールの活動後に小3の皆と接したこともあって「おっ、何か違うぞ」なんて密かにうれしく思っている今日この頃です。

【自分のことは自分で】

先月も少し触れましたが、今後も少し言い続けようと思っています。もちろん厳しく何でもかんでも、というわけではないのですが、少なくともサッカーに関することは可能な限り自分で準備して欲しいと思います。「もう自分でやってるよ」「あたり前でしょ」という声も聞こえてきますが、それでも爪が伸びていたり、シューズの紐がほどけていたり、すねあてを忘れてきたりするのが子供だったりします。これから学年が上がることで対応できていくことも思いますが、早くからその意識を持つことが生活のうえでもサッカーに取組むうえでもプラスになることは間違いないと思います。

保護者の皆様には少々気を揉む場面もあるかと思いますが、是非々々自主性を尊重しサポートをお願いいたします。

【区リーグ】

小3は市大会以上の公式戦がありませんが、神奈川区内のチームが対戦する「区リーグ」に参加します。今年も早速5/9から始まりますが、全員でいつものとおり楽しくサッカーをすることを大前提に取組みます。(小野 津春)

幼児・小1・小2

【悲しい事件!】

4月に明らかになったのですが、今年1月、新潟県内で行われた中学生年代のフットサル大会において、チームのコーチを務める教頭先生が苦手チームとの対戦を避けるために、選手にわざと負けるように指示して、実際に大敗していたという事件がありました。予選リーグにおいて3連勝して、上位2位以内が確定していたこともあり、その後の決勝トーナメントでの苦手チームとの対戦を避けようとしたものだったようです。

何が悲しいといって、同じサッカー(サッカーとフットサルは違うという意見もありますが…)に携わる人間として、この教頭と同じような指導者に見られてしまう悲しさ、サッカーの指導者のみならず学校の教頭先生という立場も考えて、黙ってその指示に従わざるを得なかった選手たちの悲しさ、自らのゴールにオウンゴールを6本も決めさせられた選手たちの悲しさなど、数え上げたらきりがありません。

【サッカーを通じて教えたいたいこと!】

いつから「指導者の仕事とはどんな手段を使ってでも、試合に勝ったり、大会に優勝したりすること手段を教えること」になってしまったのでしょうか?少なくとも、私たちかながわクラブでは、サッカーの指導を通じて、サッカーさえ上手ければ(強ければ)、良いのだということを教えるつもりは毛頭ありません。サッカーの指導を通じて、「自らの頭で考えること、自ら決断すること、そして自ら行動すること」を子どもたちに伝えようとしています。それは、将来的には「生きるための力」になります。そして、勿論このことはサッカーが上手くなり、サッカーが好きになることにも必然的につながっていくのです。

子どもにものを教える教師も全く同じと考えます。教科の指導を通じて実は、問題発見の仕方や問題解決の仕方を学ばせているのではないのでしょうか?そうした立場にあった教頭先生が、部活動の場面で…と残念でなりません。

【一番の犠牲者は?】

この事件の当事者である中学校のフットサルチームの皆さんには、是非これからもサッカー(フットサル)を続けて欲しいと祈るような気持ちで一杯です。何よりも悲しいのは、このことがきっかけでサッカー(フットサル)そしてスポーツが嫌いになることです。楽しいはずのスポーツが大人たちの勝手な都合で全く楽しくなくなってしまい、二度とやる気が起こらなくなってしまうことです。これは普段私たちがサッカーの指導を通じて行おうと考えていることは全く正反対の結果ですから。

しかし、サッカーを表す言葉として「サッカーは子どもを大人にし、大人を紳士にするスポーツだ」というのがあります。また、サッカーのルールは至って単純で、ルールそのものもたったの17条しかありません。これらのことには一体どんな意図が隠されているのでしょうか?

【自らの判断基準を!】

17条から洩れてしまうケースは全て「反スポーツ的行為(アスリートとしてふさわしい言動)ではない」を判断基準として裁かれることとなります。かつては非紳士的プレー(紳士としてふさわしくない言動)と称されていた時代もあり、その頃の精神が前述の言葉「サッカーは子どもを大人にし、大人を紳士にする」になり、脈々と語り継がれているのです。ですから、難しい要求かもしれませんが、試合前に「わざと負ける」という指示が教頭先生からあった時点で、誰か一人ぐらいはそれに対して異を唱える中学生が出て欲しかったと思うのです。サッカーに限らずスポーツはお互いが全力を尽くすことが、相手に対する最低限のマナーだと思うし、特にサッカーは「自らの頭で考え、自ら決断し、そして、自ら行動する」ことが最大限要求されるスポーツであるはずだからです。

全員が教頭先生の言うことが正しいと考えたのでしょうか?あるいは指導者の言うことには絶対服従という風潮が未だ残っていたのでしょうか?学校だし、ただの先生ではなく教頭先生の言うことだし、上下関係の厳しい部活動(?)の場面だし、言いづらい要素が多いことも想像が付きまします。

それでも敢えて、おかしいと思ったことにはおかしいと声を出して欲しかったというのがサッカーに携わる者としての本音です。

【傷を癒すために】

ブラジル人にはマリーシアがあるとよく言われます。マリーシア=狡賢さと単純に日本語に翻訳されることが多いのですが、表す内容は少し違うようです。一言で説明するのはなかなか難しいのですが、マリーシア=サッカーの試合に勝つために何をすべきかを常に考え、実行すること…ということでしょうか？いずれマリーシアについては詳しくお話ししたいと考えていますが、これとは全く正反対の指示(わざと負けろ)を受けた中学生の心の傷を思うと暗澹たる気持ちになります。勿論前述のように、異を唱えて欲しかったという本音はありますが、学校の部活という特殊な場で、学校の教頭先生という立場の指導者の言葉に対してどれほど反抗(?)できるかは想像に難くありません。

どんな気持ちで、自らのゴールに向かって6本のシュートを打ち込んだのでしょうか?審判に注意され、相手チームから抗議され、それでも試合を続けるには正常な精神状態ではいられないはず。普段練習してきた技量と勝ちたい、思い切りやりたいという覇気を封印された悔しさと、対戦相手を侮辱してしまった後ろめたさに、心は重く沈んだに違いありません。

こうした不幸な試合を通して負った心の傷の深さは計り知れないでしょう。しかし、もし、未だサッカー(フットサル)をやりたい気持ちがあるのなら、是非、新たな目標を掲げ、日々の練習に打ち込み、無心でボールを追いかけて欲しいものです。どんなに深い傷もサッカーボールを無我夢中で追いかけることで忘れられるものですから。

【分割実施も近い!?】

さて、一見幼児・小1や小2とは無関係な文章になってしまった趣がありますが、全くそれはありません。私たちかながわクラブがどういうポリシーで子どもたちにサッ

カーを指導しているのかを先月に続してお話しすることができたからです。よろしくお願ひします。

なお、幼児・小1や小2の人数が多くなってきました。早ければ5月の中旬ぐらいからは分けて活動したいと考えています。ただ、他のカテゴリーとの調整もすることですから、予定表にてご確認ください。

最後になりましたが、活動時の気温がだいぶ高くなってきています。水分補給を多めにしたいと思いますので、飲み物の用意を多めにお願いします。生理的に水分補給は一度にたくさんはできません。こまめにしたいと思います。また、のどが渇いたと感じた状態では、きちんと飲んだ分だけの水分が体内に摂取されません。こまめな給水にご協力ください。

(佐藤 敏明)

Papas

【シニアリーググラウンド提供問題その3】

グラウンド提供義務と課徴金問題については、まだ結論に至っておりません。動きがあり次第報告します。

【メーリングリストの訂正】

Papasのメーリングリスト(以下MLと略します。)のテストの結果数人の方から訂正などの申し出があり処理しました。今後ともメールアドレスの変更があるときは、遠慮なくスタッフまでメールでご連絡ください。その場合には、新たに登録したいアドレスとともに、削除したいアドレスを必ずご連絡くださるようお願いいたします。

【活動中の大怪我】

Papasの活動中に大きな怪我が発生しました。怪我をしますともちろん痛いですが、体が不自由でサッカーができないばかりでなく、働き盛りのPapasのメンバーにとりましては、仕事や家庭への影響が少なからずあります。私も10日の入院を2回してしまい、その後に骨折したときは仕事を休めないまま2か月のギプス生活を送らざるを得ませんでした。怪我は付き物、特に中高年では加齢もあり、致し方ない面もあることも確かですが、ストレッチ、アップ、用具の点検など怪我防止にできることはき

ちつとして、怪我のない壮年サッカーを楽しみましょう。怪我をされた方の1日も早い回復をお祈りします。(茅野 英一)

ヨーガ

【同窓会】

先日、高校の同窓会がありました。私の出身高校は内田コーチと同じ某県立高校です。

ほとんどの友達に会うのは30年ぶりです。

「お!アイちゃん!」(←これは高校時代の私の呼び名です。)

と声をかけられるのですが、なんだかピンと来ない。

「このオジサンは誰?」

と思っで名札を見ると見覚えのある名前。

思わずもう一度顔を見てみると...

「あ~!○○君!」

その瞬間に30年の歳月を飛び越えて高校時代に戻ってしまいます。

(女子は割合すぐに誰かわかるのですが、男子はなぜこうなのでしょう。)

「随分ふくらんだね~。」

などと軽口をたたきながらの会話は純粋に楽しいです。結構偉くなっている人もいるのに、そんな関係ない感じです。

学年450名のうち220名ほどの参加。この人数のオジサン、オバサンが集まっての異常な盛り上がりです。漫画のようにこの図を描いたならば、そのバックには間違いなく

「ゴゴゴゴゴ~!!」

といったような字が書かれることになるでしょう。

内田コーチとともに、この同窓会の幹事団の一員として準備をしてきました。会の成功にほっと一安心。そして、その余韻に浸りながら、同級生は私の宝物だとしみじみと思う私です。(伊藤 玲子)

たわごと 理事長の戯言

【高木ブー?】

新しい学年になってはや一ヶ月。大口台小での小3と小4の練習も、子どもたちはだいぶ慣れてきました。

コートを4面作り、3~4人同士のミニゲームをひたすら行ないます。目印のマーカーは私が置きますが、チームを作るのも、ゴール代わりのコーンを置くのもすべて子どもたちが率先してやります。

はじめのうち3年生は戸惑いますが、4年生が面倒をみますので予想以上にスムーズに進行します。

さて、ミニゲームの内容はというと・・・。

ボールを自由に扱えれば問題ないので、まだまだおぼつきません。相手(敵ではありませんよ!)の選手が寄せてくると、どうしても焦ってしまい早くボールを離したいために蹴ってしまいます。

すると相手に当たり、自分よりも後方にボールが飛んでいきます。最悪の場合は寄せてきた子の顔面にボールが当たり、鼻血が出ます(そしてもちろん泣きます)。

こどもたちには、「相手がいるのに蹴ったら鼻血ブー、ドリフにいたのは高木ブー」と言っておぼえてもらいます。

すると、同じような状況が生まれたときに、子どもたち同士で「それじゃ高木ブーだろ!」と言って注意しあっています。

なので見学にいらっしゃる皆様、子どもたちが「高木ブー!」と言っていたらこういう意味があるんだということをご理解下さい。

一部の子どもたちは「高木ブー」だけおぼえているようですが・・・。(内田 佳彦)

